

# 宮城県林業普及活動情報

2024. 5月号 No. 192

## もくじ

### 各地の林業普及活動情報

P 2~11

- 山菜シーズンにおける直売所等への注意喚起指導 (大河原地方振興事務所)
- たけのこの出荷制限全面解除に向けた取組 (大河原地方振興事務所)
- 森林経営管理制度による森林整備の推進に向けて (仙台地方振興事務所)
- 森林組合が行う農林中金(森力基金)による森林整備等への支援 (北部地方振興事務所)
- こけしの材料となるミズキ林の毎木調査 (北部地方振興事務所)
- 管内竹林の森林施業による放射性物質対策技術の検証(追跡調査) (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 苔玉・テラリウム教室への支援 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「特別防除に係る地元説明会」の実施 (東部地方振興事務所)
- みやぎ水産の日販売会における特用林産物の販売支援 (東部地方振興事務所)
- 山大Sustainableコンサート開催時に植樹活動PR (東部地方振興事務所)
- 「東部管内林業関係業務担当会議」の開催 (東部地方振興事務所)
- 登米市の水とワサビ体験学習支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 第48回全国育樹祭記念行事「市民参加の新たな森林づくり・春」開催 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 気仙沼市産メンマづくり体験会 (気仙沼地方振興事務所)
- 森林施業プランナー養成研修を開催 (林業技術総合センター)
- 令和6年度第61回林業教室を開講 (林業技術総合センター)
- 令和6年度みんなの森林づくりプロジェクト推進事業安全講習会を支援 (林業技術総合センター)

## 山菜シーズンにおける直売所等への注意喚起指導

大河原地方振興事務所

【2日(木)】

春の山菜シーズンに伴い、管内の特用林産物を取り扱う直売所を対象に放射性物質による食の安全・安心を確保するため巡回指導を実施しました。

今回は、昨年度の情報収集等により取り扱いが想定される管内の直売所を対象に、放射性物質濃度の基準値を超えた商品を流通させないよう、また、山菜等の取り扱いに注意するよう巡回指導を実施し注意喚起を行いました。改めて、食の安全・安心を確保するため、検査の必要性が再認識されるとともに、また、たけのこに関する販売ルールについても周知・徹底を図ることができました。

引き続き、安全安心な食品の流通について、生産者や関係市町と連携し、取り組んでいきます。



【巡回の様子】

## たけのこの出荷制限全面解除に向けた取組

大河原地方振興事務所

【14日(火)、22日(水)】

白石市と丸森町の「たけのこ」について、今シーズンも生産者及び市町等と連携し、適時適切に出荷前及び定期検査を実施しながら、安心安全なたけのこの出荷に取り組んでいます。また、丸森町の3地区については、全量スクリーニング検査を実施した上で出荷していますが、全面解除に向け、生産者との情報交換を行いながら、たけのこ採取とモニタリング調査を実施しました。今後、検体の放射性物質濃度結果を踏まえ、出荷制限の全面解除に向け、関係機関との協議や、生産者に対し各種情報提供を行うなど、丸森町と連携してたけのこ生産の支援を継続していきます。



【たけのこ掘取の様子】

## 森林経営管理制度による森林整備の推進に向けて

仙台地方振興事務所

【15日(水)】

仙台地域は森林組合をはじめ多くの民間事業者が森林整備の担い手となっています。また、生産森林組合や愛林公益会、財産区などの林業経営団体も多く組織されている地域です。

今年度も森林整備を進めていくに当たり、これらの団体や市町村を対象に林業振興関係業務の打合せ会を開催し、情報共有を図りました。

今回は事業者にも周知を図りたい事項として森林計画制度と森林経営管理制度を取り上げ、説明を行いました。

また、市町村に対しては森林経営管理制度による森林整備を進めていくよう、改めて説明を行ったところです。

今後も引き続き、情報交換を密にして、連携を深めながら森林整備や木材利用を進めていきます。



【市町村、林業事業者、森林所有者が一堂に会しました】

## 森林組合が行う農林中金（森力基金）による森林整備等への支援

北部地方振興事務所

【14日(火)】

大崎森林組合が、公益信託農林中金森林再生基金（農中森力基金）の第10回助成に応募し、全国15件の中から助成されることが決定し（決定：7件）、「鳴子温泉『雫の森』再生プロジェクト」として、溪流沿いの荒廃した森林の整備等を行うこととなりました。

今回の打合せでは、大崎森林組合から概要説明があり、「伐採に係る届出等の手続きや活用可能な事業等について知りたい。」とのことでした。

概要説明によると、事業地をエリア分けして施業を行う内容であったため、それぞれの具体的な施業内容を整理した上で、必要な手続きや事業の確認を行うこととしました。

施業は、令和7年3月までに終える内容であることから、確認作業を早急に進め、事業に着手できるよう支援していきます。



【打合せの様子】

## こけしの材料となるミズキ林の毎木調査

北部地方振興事務所

【17日(金)】

令和4年度に鳴子木地玩具協同組合（以下：玩具組合）から相談があり、こけしに使用するミズキ材の確保を進めています。

昨年度（R5）森林所有者と玩具組合との間で初めて立木売買契約が行われ一定の材料を確保することができました。

今年度も対象となる広葉樹林が見つかったことから玩具組合（4人）と事務所職員（4人）でミズキの毎木調査を行いました。

今回の箇所は、0.7ha内に155本のミズキがあり、その調査データを取りまとめ玩具組合に提供しました。

今後、森林所有者と玩具組合との間で立木売買の契約交渉が行われます。その際は、事務所職員が説明・調整役となる予定です。

引き続き、林業関係者等からミズキ林の情報収集を行って支援していきます。



【調査前の打合せ】



【樹高計測】

## 管内竹林の森林施業による放射性物質対策技術の検証（追跡調査）

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【17日(金)、20日(月)】

当事務所では、福島第一原発事故による放射性物質汚染の影響を受けた竹林における、タケノコ出荷制限の早期解除に向けて、森林施業による放射性物質低減の取組を実施しています。

これは、竹林の間伐作業を行うことで、林内の放射性物質を外に運び出し、その後発生するタケノコの放射性物質の濃度を下げていく試みで、その効果を検証するため、毎年タケノコを採取し、放射性物質濃度を測定し



【試験地ごとにタケノコ検体を採取し、放射性物質濃度を測定】

てきました。

今年度も、栗原市内の複数箇所に設定した試験地（プロット）においてタケノコを採取し、検査できる状態（試料）に加工してから、検査機関に発送しました。

試験地を提供していただいた竹林所有者の方々の関心は高く、面会の上、試験結果と今後の取組の方向性について話し合いました。

## 苔玉・テラリウム教室への支援

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【29日(水)】

苔の聖地化・産地化を目指している栗原地区において、本年6月29日に栗原青年会議所主催の「第54回青年会議所宮城ブロック大会 in 栗原」が栗駒地区で開催されることとなり、その「たからいち」ブースに、「くりはら苔アンバサダーバンク」として出店する意向であることから、打合せを行いました。

また、8月11日に開催予定の「杜のコケリウムコンテスト栗原ワークショップ」について、概要説明を行いました。

当初は、栗原産の苔をプリンパックに入れて販売・PRすることとていましたが、一般の来場者が買ってくれるかが未知数であるとの意見が出されたことから、今回は苔玉・テラリウム作製教室の開催を通して、栗原の苔をPRしていくこととなりました。

また、「杜のコケリウムコンテスト栗原ワークショップ」については、他の苔関連イベントを含め、農山漁村なりわい課所管の「地域資源活用促進支援事業」に応募し、事業内容を拡充していくこととなりました。



【苔アンバサダーバンクの活動が本格的にスタート】

## 「特別防除に係る地元説明会」の実施

東部地方振興事務所

【2日(木)】

松くい虫被害防止のための特別防除（ヘリコプターによる薬剤散布）について、事業対象地となる宮戸地区住民を対象に、事業内容の説明会を実施しました。併せて、地元の漁協も訪問し、スケジュール等の説明を行い、事業への協力を依頼しました。

当方からの事業の説明を経て、住民に事業内容について理解いただき、また、地元漁協からも理解を得られ、漁業者への周知等に協力いただけることとなりました。説明会の中で、「安全に留意して実施してほしい」との意見が多く挙げられたこともあり、



【説明会の様子】

事業実施に当たっては、安全性に十分留意するとともに、次回以降も引き続き説明会等を行い、事業の意義や内容を普及していく必要を感じました。

## みやぎ水産の日販売会における特用林産物の販売支援

東部地方振興事務所

【15日(水)】

当事務所の1階ロビーにおいて実施されている「みやぎ水産の日」展示販売会において、管内で生産された菌床しいたけ及び菌床きくらげの販売支援を行いました。

当日は生しいたけ及び乾しいたけ、乾きくらげを販売し、全て完売となりました。

来訪者に対しては、しいたけの調理方法や保存方法等を説明したほか、管内のきのこの生産状況等をPRし、普及を図りました。

引き続き、同販売会（毎月1回開催）において特用林産物の販売支援を行うほか、その他の販売会等の機会を捉え、管内の特用林産物の販路拡大に取り組んでいきます。



【販売会の様子】

## 山大Sustainableコンサート開催時に植樹活動PR

東部地方振興事務所

【15日(水)】

合庁で行われる「山大Sustainableコンサート」において、令和5年12月に開催された「石巻圏域における再造林促進に関する協定」に基づく植樹式の様子を紹介しました。

株式会社山大、石巻地区森林組合、当事務所の3者で実施した植栽式の様子を紹介し、来場者から取組の理解を得ることが出来ました。

「山大Sustainableコンサート」等に多くの県民が訪れることから、引き続き、森林資源の循環利用を推進し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成についてPRしていきます。



【展示したパネル】

## 「東部管内林業関係業務担当会議」の開催

東部地方振興事務所

【23日(木)】

当普及指導区管内の市町及び森林組合の業務担当者に対して、令和6年度の森林整備事業等の業務内容について、当部の各担当者から説明を行いました。

森林整備に関しては、補助事業の変更点を中心に説明したほか、森林保護や森林計画制度をはじめ、森林経営管理制度の推進に向けた協力をお願いしました。

併せて、保安林・林地開発・鳥獣保護や治山・林道等の当部業務全般についても部内各担当者から説明を行い、適切な森林整備への理解を促すことができました。



【会議の様子】

## 登米市の水とワサビ体験学習支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【22日(水)】

津山町林業研究会が林業後継者育成を目的として行っている林業体験学習(ワサビ栽培体験)を支援しました。ワサビ栽培に必要な水との関連により、森の水源涵養機能や森林施業(間伐)の重要性について説明しました。

日頃使用している水との関わりを知るため、大萱沢浄水場を見学しながら、森林の水源涵養機能について講話が行われました。ワサビ田の見学では、生産者による栽培方法の説明や、質問対応、試食により、森林がはぐくむ水を活用した特用林産物栽培について理解を深めることができました。



【浄水場での講話と試食用ワサビ】

## 第48回全国育樹祭記念行事「市民参加の新たな森林づくり・春」開催

東部地方振興事務所登米地域事務所

【26日(日)】

第48回全国育樹祭の記念行事となった、登米市と共催で実施している植樹イベント「市民参加の新たな森林づくり・春」を開催しました。155名の市民等が参加し、0.36haの登米市有林に、720本のコナラを植栽しました。参加者は津山町森林組合職員から植栽指導を受けた後、唐鍬を用いて1人約5本のコナラを植栽しました。植林作業を体験し、森林の育成について理解を深めてもらうことができました。当日は親子連れをはじめ、幅広い年代の方々が参加され、木育や全国育樹祭の気運醸成に向けて効果的に実施できたイベントとなりました。



【木を植える参加者の様子】



【植栽されたコナラ】

## 気仙沼市産メンマづくり体験会

気仙沼地方振興事務所

【13(月)、17(金)、22(水)、28日(火)】

令和元年度から、気仙沼市内の竹林所有者と協力し取り組んでいる幼竹を用いたメンマ作りについて、メンマ作りに興味を持った方などに幼竹の採取、下ごしらえ、塩漬け作業までを、メンマづくり体験会を通じて体験してもらいました。

今年度は、従来行ってきた気仙沼地区のほか、旧本吉地区、南三陸地区(旧志津川)の3地区でメンマづくり体験会を開催することができ、今年度の目標である生産拠点を増加させることが出来ました。

また、当日は、県農業分野担当者や他管内の林業分野担当者も参加するなど、当管内林業分野のみならず、生産者のネットワークが拡大しています。作業実施後にはメンマづくりの課題や、竹資源の活用方法についての意見交換会を実施するなど生産者間で交流を図りました。

昨年度は、メンマづくりは成功したものの、販売面ではラーメンイベントでの限定使用に留まったため、今年度は販売先の開拓も併せて実施し、生産者の更なる拡大を目指して活



【気仙沼地区：下拵え状況】

動していきます。



【旧本吉地区：意見交換状況】



【南三陸地区：塩ゆでまで完了】

## 森林施業プランナー養成研修を開催

林業技術総合センター

【22日(水)、23日(木)】

当所研修棟において、6名の研修生を得て標記研修会を開催しました。

研修会では、認定森林施業プランナー合格に向け「森林施業プランナーテキスト改訂版」を用いて講義を行いました。また、過去の問題演習のほか、翌日は、栗駒高原森林組合において月岡副参事から、森林施業プランナーの実務について学びました。

今後も、より多くの森林施業プランナーが誕生するよう、支援を継続します。



【座学の様子】



【現地実習の様子】

## 令和6年度第61回林業教室を開講

林業技術総合センター

【29日(水)】

当所研修棟において、13名の受講者を得て標記研修会を開催しました。

研修会では、森林・林業用語の基礎知識、みやぎの森林・林業の現状について理解いただくために、森林・林業用語の基礎知識の单元において「森林・林業用語の基礎知識」及び「宮城県民有林材積表及び林分収穫表」並びに、みやぎの森林・林業の单元において「みやぎの森林・林業」及び「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ開校パンフレット」を配布し、理解の助けとしました。また、育種研究者が所内育種施設を案内しました。

今後も林業技術者の育成に向け林業事業者等を支援します。



【林業用語の基礎知識の説明】



【研究員による育種施設の説明】

## 令和6年度みんなの森林づくりプロジェクト推進事業安全講習会を支援

林業技術総合センター

【31日(金)】

大衡村の平林会館において、29名の参加者を得て、宮城県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会が主催した標記研修会において講義を行いました。

研修会では、伐倒時の防護装備品と「林業・木材製造業労働災害防止規程(2023.12.11適用)」の説明、チェーンソーの仕組と修繕方法、身体バランスの維持と錯視及び怪我人搬送における運搬重量の確認、レイノー症の予防対策、伐倒作業のリスクアセスメントについて講義しました。また、随時質問事項を確認し、伐倒時に日頃注意している点の聞き取りをすることで学習効果を高めました。

今後も林業労働災害の防止に向けた支援を行います。



【研修会の様子】